

ランチョンセミナー

健康な肌づくりを目指して ～乳由来スフィンゴミエリンが持つ 皮膚バリア機能改善の可能性～

日時▶3月19日（日）12:30~13:20

会場▶A-05（京都女子大学A-401）

演者



京都大学大学院 農学研究科
応用生物科学専攻
海洋生物生産利用学分野 教授

菅原 達也 先生

座長

京都大学大学院 生命科学研究科
統合生命科学専攻
生体情報応答学分野 教授

永尾 雅哉 先生

皮膚は、体の表面を覆う人体最大の臓器

ともいえ、体内からの水分蒸散や、体外からの異物の侵入を防ぐための重要なバリア機能を担っています。加齢による老化に加えて、太陽光に含まれる紫外線、冬季における空気の乾燥、洗剤を用いた過度の皮膚の洗浄などの外的要因によっても、皮膚バリア機能の低下が起こり得ます。その結果、外からの異物が皮膚内部に入りやすくなると、肌荒れ、乾燥肌、敏感肌などの肌トラブルや、皮膚炎などの発症につながる考えられます。

食品成分を摂取することによって皮膚

バリア機能が改善されることが報告され、なかでもセラミド関連食品素材（スフィンゴ脂質）に注目が集まっています。しかし、消化・吸収や作用メカニズムには不明な点も多いため、私たちはそれらの解明を目指した研究を進めています。ミルクはセラミド関連成分（スフィンゴミエリン）が多く含まれている食品です。この乳由来スフィンゴミエリンにも、皮膚バリア機能を改善して健康な肌を維持する効果が期待されます。

本セミナーでは、乳由来スフィンゴミエリンの構造、消化吸収性、皮膚バリアに対する機能性について、私たちが進めてきた研究の成果をご紹介したいと思います。